市民を愛する　市民に愛される　病院へ

有明医療センター 地域医療連携だより

小岱

第49号
2023年
10月発行

- 地域医療支援病院・地域周産期中核病院
- 心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院
- 脳卒中急性期拠点医療機関・回復期医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院
- 臨床研修病院（基幹型・協力型）
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 第2種感染症指定医療機関

ごあいさつ

荒尾市立有明医療センター　院長　勝守　高士

今年の夏は観測史上最も気温の高い酷暑でしたが、漸く朝晩の涼しさに秋の気配を感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

荒尾市民病院は築55年の中央病棟を筆頭に老朽化が進み、皆様に多大なご不自由をおかけしてまいりましたが、2年半前に着工した新病院が8月17日に竣工し、いよいよ、10月1日に荒尾市立有明医療センターと改名し、開院いたしました。

新病院は、高齢化社会および新型コロナ感染症蔓延に対応し、さらに、現在当院が指定を受けている、がん診療連携拠点病院・災害拠点病院・脳卒中急性期拠点病院・心筋梗塞等心血管疾患急性期拠点病院としての責務を十分に果たす目的で設計いたしました。その特徴は①患者目線で利用しやすい外来（短く曲がり角の少ない動線、判りやすいサイン）②救命率を上げる為の救急部門の配置（救急外来・放射線診断部門・IVR室・内視鏡室・手術室・HCU・ヘリポートの近接化）③患者に優しくかつ精度の高い高度医療の実施（ロボット手術可能な手術室、陽陰圧可変手術室、バイプレーンカテ室）④患者の感染対策・プライバシー保護に対応した全室個室、コロナ病棟全室陰圧室⑤線状降水帯による集中豪雨時でも被災しない海抜14mの立地条件で南海トラフの大規模地震にも耐える免震構造です。

新病院開院に際して、歯科口腔外科を新設し、また、荒尾市医師会と連携し、荒尾地域で持続可能な周産期医療体制の構築に取り組んでいく事になりました。歯科口腔外科では、今まで大学病院への紹介が必要であった、顎変形症に対する手術や顎顔面骨骨折、口腔領域の悪性腫瘍、顎顔面の炎症に対する治療などが当院で可能になります。周産期医療にあたっては新病院にLDR室（陣痛開始から分娩、回復までの時間を1つのベッドで過ごせる部屋）を設置しました。LDR室は手術室に直結するエレベーターに近接して配置し、緊急帝王切開にも即座に移行できるようにしております。母子共に安全な出産を目指して設計いたしましたのでどうぞご利用ください。

荒尾市民病院は有明医療センターと改名後も荒尾市唯一の急性期病院として、新型コロナの院内感染を予防しながら、病診連携を緊密に行い、効率のいい診療を行うことで地域住民の健康の維持・増進に努めていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

新病院開設に伴い新たに整備される周産期医療体制の紹介

荒尾市立有明医療センター　産婦人科　田島　朝宇

２０２３年１０月に新病院が開設いたしました。新病院開設に伴いまして、荒尾市が提唱する、あらお未来プロジェクトの５つの柱のうち「切れ目のない充実した子育て環境を作る」「誰しもがつながりを持ち、健康で生き生きとした暮らしを作る」を実現するために荒尾地域において持続可能な周産期医療体制を整備し、安心して子供を産むことができる環境づくりを念頭に整備をすすめております。その取り組みの一環として新たに周産期医療体制を整備することとなりました。

産婦人科医師数は都市部を除いて全国的に減少傾向にあり、熊本県内におきましても例外ではありません。そのため妊婦さんが地元で出産することができない地域もあります。

これまで荒尾地域での出産は診療所が２施設（いしかわ産婦人科、まつおレディースクリニック）と病院１施設（荒尾市民病院、産婦人科は医師２名体制）の３施設でそれぞれ取り扱われていました。しかし、診療所では出産に係る人員の確保、荒尾市民病院では産婦人科医師２名の体制で日頃の診療と並行して出産を取り扱うことが非常に困難な状況となっております。

このような状況の中で今後も荒尾地域の出産を独自にそれぞれの施設で行うことを継続するといずれは周産期医療が崩壊して地元での出産ができなくなることが予測されます。このような事態を回避するために出産を含めた周産期管理を新病院に集約して産婦人科医師４名体制で取り扱うこととといたしました。

具体的には今までと同様に妊婦さんはそれぞれの診療所（いしかわ産婦人科、まつおレディースクリニック）で妊婦健診を行い、妊娠１０か月（３６週）以降より各所の医師が場所を新病院に移して妊婦健診を行います。出産もそれぞれの診療所の医師を中心に行います。よって、各診療所から新病院へ紹介するのではなく一連の流れで診療を行います。この体制は妊娠１０か月（３６週）以降の妊婦健診と従来のオープンシステム⑴とセミオープンシステム⑵を合わせた新しい取り組みになります。

熊本県内でも最も新しい病院である有明医療センターで快適な周産期管理が行えるよう医療環境と同様、快適な入院生活が送れるように食事を含めたアメニティー面の充実にも力を注ぎます。

妊産婦および新生児のハイリスク症例に関しましては、今までと同様に熊本大学病院・大牟田市立病院等の医療施設と連携を取ります。

新病院が皆様に愛されるようスタッフ一丸となって尽力してまいります。

⑴オープンシステムとは、妊婦健診は診療所で行い、分娩は診療所の医師自身が連携病院に赴いて行う場合と定義した。すなわち、診療所の医師が原則として分娩に立ち会うことを患者と約束している場合を言い、この場合の診療上の医師は、アメリカにおけるattending physician（立ち合い医、担当医あるいは 主治医）に相当する。

⑵セミオープンシステムとは、妊婦健診をたとえば９カ月位まで診療所で診療所の医師が行い、その後は提携病院へ患者を送るものを言うこととした。すなわち、診療所の医師は原則として分娩に立ち会わず、その後の妊婦健診と分娩は病院の医師の責任で行われることを患者が了解している場合である。

出典：周産期医療施設オープン病院化モデル事業３年間の取組［平成20年３月　厚生労働省医政局総務課　医療安全推進室］

歯科口腔外科とは!?

荒尾市立有明医療センター　歯科口腔外科　髙橋　望

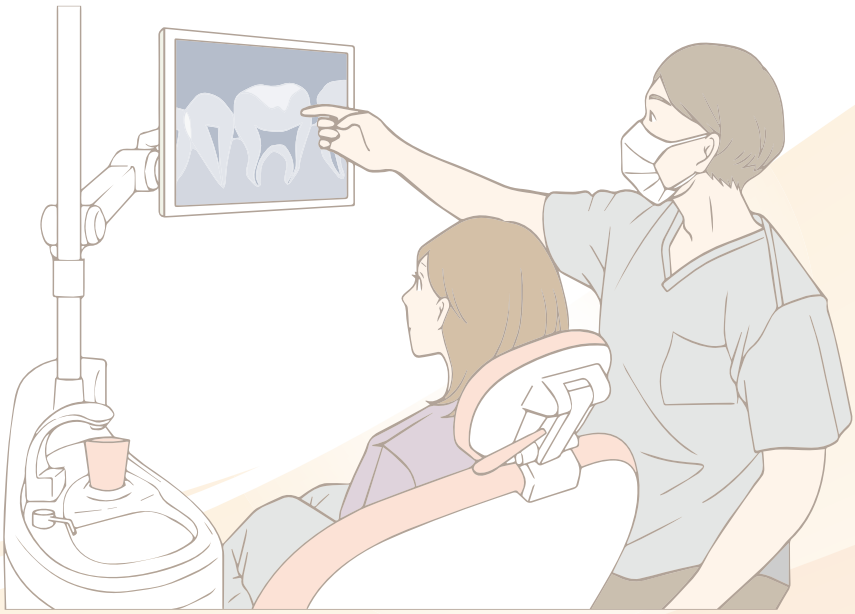
2023年10月の新病院移転に伴い「歯科口腔外科」が新設となり、熊本大学病院歯科口腔外科より髙橋望(口腔外科専門医)、坂田凛太郎(口腔外科認定医)の2名が常勤として赴任致しました。

「歯科口腔外科」という診療科にあまり馴染みがない方もいるかと思いますが、歯科口腔外科とは「(病院内の)歯科」と「(口腔内外の手術を行う)口腔外科」の二面性を持つ診療科です。

前者の役割としては他診療科入院中(通院中)の患者さんの口腔内症状に対する対処(応急処置等)です。特に化学療法や手術前後の周術期口腔機能管理(抜歯や口腔ケア等)に関しては、本来の治療がスムーズに進むように力になれればと思います。なお、虫歯や歯周病(歯槽膿漏)、被せ物や入れ歯等の一般歯科治療については原則としてかかりつけ歯科医院にて行っていただく方針です。

当診療科の主な役割としては後者の「口腔外科」と考えております。口腔外科とはその名の通り口腔領域の外科ですが、手術加療が必要な疾患だけでなく、難治性口内炎や口腔白板症、顎関節症や三叉神経痛等の口腔内科疾患も診療致します。当科は熊本北部(荒尾市、玉名郡市)、福岡南部(大牟田市、柳川市、みやま市)の2県にまたがる有明医療圏における口腔外科の二次医療機関として新設されました。2021年にくまもと県北病院(玉名市)歯科口腔外科が新設されておりますが、その他の地域では常勤医がいる口腔外科二次医療機関はなく、当科は荒尾市以北の地域の診療がメインになるかと思われます。智歯(親知らず)抜歯等の口腔外科小手術に加え、顎変形症に対する手術(顎骨骨切り)、顎顔面骨骨折(上下顎骨、頬骨等)加療、口腔領域の悪性腫瘍加療(手術、化学療法、放射線治療も含めた集学的治療)、顎顔面領域の炎症等、従来であれば大学病院等の都市部の歯科口腔外科へ紹介が必要であった疾患についても可能な限り地元である有明地域での加療ができるよう努める所存です。

また、休日および時間外についてはオンコール体制となります。常勤医2名とも近隣に居を構えておりますので、当院へご連絡頂き、緊急性が高い場合(外傷、炎症、出血等)は即座に対処致します。少しずつ当科が認知され、地域の医療機関、患者さんにとって相談しやすい診療科となれればと思います。口腔内にお困りごとがあればいつでも気軽にご相談下さい。



診療科紹介

呼吸器外科

荒尾市立有明医療センター　呼吸器外科　大隅　祥暢

2023年4月より、当院にて毎週火曜日に呼吸器外科の外来診療を開始させていただいております。

呼吸器外科という診療科名を聞いた事のない方もいらっしゃると思います。そこで、呼吸器外科がどのような診療を行っているかを紹介させて頂きたいと思います。

呼吸器感染症や肺の腫瘍の診断に関しては、呼吸器科(呼吸器内科)の先生にご相談やご紹介頂いている事と思います。私たち呼吸器外科は肺、気管、縦隔など主に胸腔内の臓器に対する外科治療を行っております。治療を行う疾患は悪性腫瘍の割合が多く、その中心となるのは原発性肺がんです。近年も次々に新たな薬物治療が誕生しておりますが、原発性肺がんに関しては早い段階での手術加療が望ましいという考え方は以前から変わっておりません。「肺癌診療ガイドライン」におきましても、リンパ節転移を認めていない臨床病気I-II期の原発性肺がん症例に対しては、手術加療を行うことが推奨されております。

他にも転移性肺腫瘍に関してご相談をいただく事もございます。これは、他臓器の腫瘍が肺に転移してきた病態です。手術適応に関しては患者様の状態を見ながら検討させて頂くことになります。

縦隔腫瘍も呼吸器外科が手術加療を行う疾患です。縦隔とは胸の中心にあり、左右の肺の間にある空間です。縦隔には重要な臓器、血管、神経などが存在します。この部位に発生する腫瘍が縦隔腫瘍であり、種類も様々です。健診の胸部単純写真にて異常な陰影を指摘され、偶然発見されることも多いです。原則として手術による摘出を検討することになります。

呼吸器外科の手術は胸腔鏡と呼ばれるカメラを用いた手術が主流です。この手術方法では肋骨と肋骨の間(肋間)から器具を挿入して手術を行うため、専用の道具や技術が必要となります。胸腔内には重要な臓器も多いため、当院での手術の施行が困難である場合は、患者様やご家族様と相談の上で熊本大学病院など専門性の高い病院へ紹介させて頂く事もございます。

以上簡潔ではございますが、呼吸器外科に関して紹介させて頂きました。上記疾患の治療方針に関してご相談や、胸腔内に発生した上記以外の疾患に関しましても、ご判断にお悩みの症例がございましたら、当科へご紹介頂けましたら診察させていただきます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

屋上ヘリポートの設置

荒尾市立有明医療センター　救急科　松園　幸雅

新病院オープンに伴い、当院では屋上にヘリポートが設置されます。

病院ヘリポートとして、ドクターヘリ、防災消防ヘリ等により、緊急重篤患者が当院へ搬送されることになります。さらに緊急性においては若干の猶予のある病院間の搬送や臓器移植ヘリの受け入れまでを前提にして設置しています。

今まではドクターヘリや防災消防ヘリによる緊急重篤患者の搬送は、臨時の離着陸場（ランデブーポイント）として運動公園を利用していましたが、平成26年からは荒尾消防署（災害情報指令センター）に隣接する地上ヘリポートで離着陸を行い、その後、救急車で当院に搬送しています。また当院でも治療が難しい重篤患者を救命救急センター等の高次医療機関へ病院間転送する場合は当院から救急車で離着陸場まで搬送して、その後、ヘリコプターに引き継ぎを行っていましたが、当院の屋上ヘリポートで離着陸出来るようになると、離着陸場と当院の間の救急車での搬送が短縮され、より早くより円滑に患者の受け入れあるいは転送が出来るようになります。

高次医療機関は熊本市内にあり、救急車による転院搬送を行う場合は1時間を要しますが、ヘリコプターでは約15分で搬送されます。ヘリコプターによる搬送は、迅速な医療介入と高度医療を提供するために有効な手段となります。

また大規模災害発生時には患者搬送のみならず、医療品や物資の輸送などにも有効に利用され、より安全な医療を提供するため、災害拠点病院としての役割を果たすことが出来ます。

運航時間は原則として午前8時30分から午後5時15分までとなります。（ただし、日没時間等を考慮して、運航時間は変動します。）

病院近隣の皆さまにはヘリコプターの離着陸時における騒音等で大変ご迷惑をお掛けすることになりますが、どうぞご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

大型機器
紹介
放射線技術科

Philips 社製 1.5T MRI装置MR5300

この度当院では病院移転に伴う大型機器整備としましてMRI装置の機器更新を行いました。

導入されましたMRI装置はPhilips社製MR5300で、熊本県1号機となります。

今後この新MRI装置MR5300を最大限に活用し当院の病院理念であります「患者中心の安全で質の高い医療の提供に努め、地域住民の健康の維持・増進に努めてまいりたい」と思います。

簡単ではありますが下記に新MRI装置MR5300)の特長を御紹介致します。

装置特長

① 全身の検査に対応したフルデジタルMRI装置

- 従来のシステムではコイルで受信した信号をアナログデジタル変換器ADC)へ転送してデジタル信号へと変換することで信号の減衰が生じていました。
- 新装置ではADCを小型化することで、RFコイルに内蔵し信号を減衰させることなく、最大SNRが最大40%向上させることが可能。

② 90%以上の患者が快適であると回答した「Comfort Plus Mattress」

- 同じ体位での不快感は10分経過後より増大するため、検査時間の長いMRI検査において寝台上の快適性を向上させたMattress。
- 「Comfort Plus Mattress」により同じ体位が10分以上経過しても快適性を維持でき、安定した検査を継続可能。

③ 新設計の「BlueSealマグネット」搭載

- 従来超電導状態を維持するため約1500リットル以上の液体ヘリウムが必要でしたが、Blue Sealマグネットの採用によりは冷却効率が非常に高く、わずか7リットルで超電導状態を維持可能。
- クエンチ液体ヘリウムの外部排出に現象によるヘリウムガスの外部排出を起こすことなく、予期せぬ事故においてもダウンタイムを最小限に抑えることが出来る。
- 将来に渡りヘリウムの再充填が不要で、ヘリウムにまつわるコストも発生することなく持続可能なMR運用を実現。

④ 新設計コイルが実現するBreeze Workflowで検査運用効率を改善

- 軽量化されたフレキシブルコイルにより体幹部用コイルは44x59㎝の広範囲をカバーでありながら、約1.3㎏と大幅な軽量化を実現。(従来の体幹部用コイル:約5.3㎏)
- 寝台マットレスにケーブル収納スペースが設けられ患者にケーブルが直接触れることなく安全に管理が可能。

⑤ AIによる高速・高画質化、適応範囲97%を実現した「Smart Speed」技術

- 現在使用している高速化技術 Compressed SENSE) がさらに進化を遂げた「Smart Speed」
- 97%の撮像シーケンスに対応可能でさらなるImage Quality を追求可能。
- AI技術により高速化に伴うノイズとアーチファクトを低減させることで、より自然でデータ損失の少ない画像を得ることが可能。
- 従来より65%の高速化と高画質化が可能。

大型機器
紹 介
放射線技術科

血管撮影装置(Philips社製)
Azurion 7 C12 , Azurion 7 B20/15

新病院開院に伴い血管撮影装置を Philips社製のAzurion 7 C12 , Azurion 7 B20/15に更新しました。

- 血管撮影装置はカテーテルと呼ばれる細い管を血管の中に入れてX線撮影することで、血管の形状を把握する造影検査や、異常な血管・部位をデバイスと呼ばれる器具で治療するインターベンションを実施するためのX線装置です。

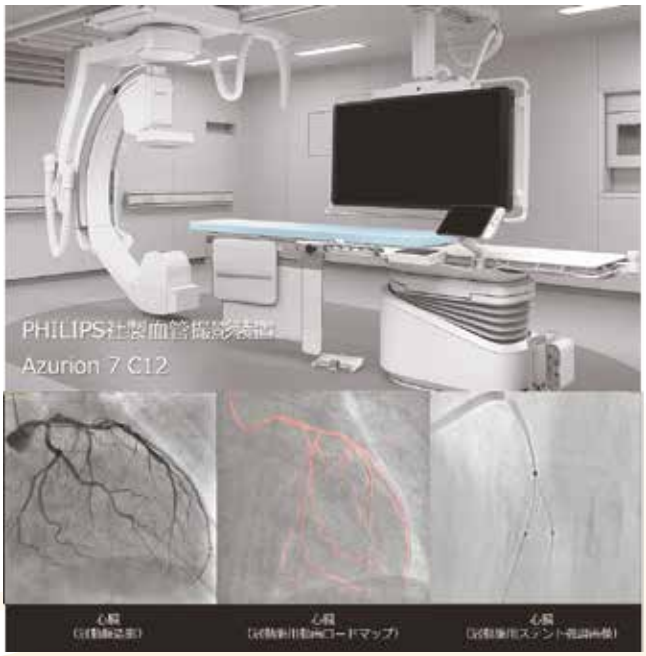
- 最新型フラットパネル検出器を搭載しており、従来より4倍の情報量を有することで細かな血管構造や病変部位をより鮮明に描出します。

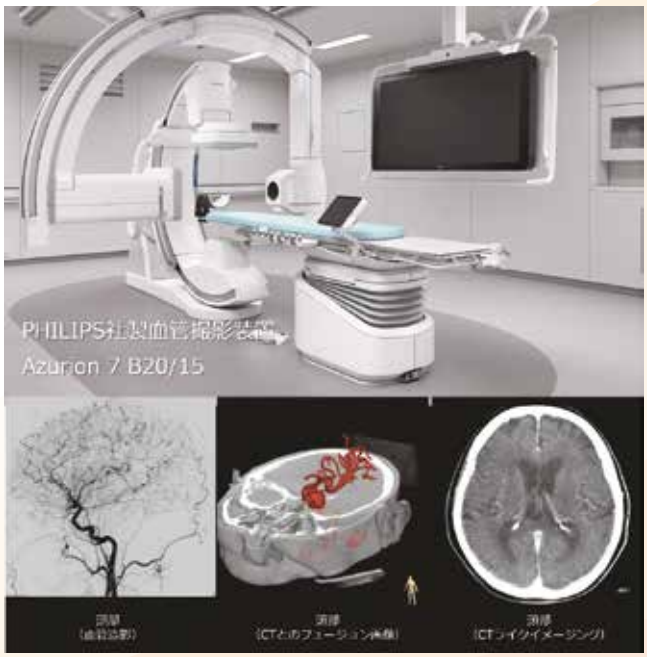
- 最新の被ばく低減機能や造影剤使用量を減らす機能を搭載しており、患者様への負担が少ない治療に貢献します。

- シングルプレーンである Azurion 7 C12 は主に急性心筋梗塞に対する血行再建術をはじめとした心臓血管領域にて用いることとなります。また、ロードマップ機能や多軌道回転撮影機能であるCardiac Swingが導入され、一度で多軌道の回転撮影を行うことで、より多くの情報を得ることが可能となりました。

- バイプレーンであるAzurion 7 B20/15 は主に脳血管領域で用います。2つの検出器を搭載しているため１回の造影撮影で2方向から同時に画像を得ることが可能となり患者様の負担を最小限に抑えます。高精度な回転撮影機能により3D血管画像やCBCT画像が容易に得られ、治療時間の短縮に貢献します。また、術前のMRIやCT画像を用いた3Dロードマップ機能が追加されました。血管3D像の撮影が不要で、造影剤使用量の低減が期待されます。

- 新規導入するインジェクタ Arcatena (Bayer社製) により造影剤と生理食塩水の混合注入が可能となります。これにより一検査当たりの造影剤使用量の減量が期待できます。





大型機器
紹介
放射線技術科

マンモグラフィ装置（FUJIFILM社製）AMULET Innovality

当院では、マンモグラフィ装置をAMULET Innovality（FUJIFILM社製）に更新いたしました。

この装置はフラットパネル型デジタルディテクタを採用しており、従来の装置と比べて少ないX線量で質の高い画像を撮影でき、高い病変描出能をもっています。

① 検査時間の短縮

従来のCR型マンモグラフィ装置と比較して操作性が向上し、画像を確認するまでの時間が大幅に減少しました。1枚当たり画像確認までの時間が従来の約1分から3～5秒に短縮しています。また、今までは検査終了後に待合室にてお待ちいただいて画像の確認を行っていましたが、この装置ではその場で確認が可能であるため患者様の待ち時間の短縮につながります。

② 画像の向上

この装置の特徴は患者様ごとの体内の立体構造を正確に描出する画像認識技術により、高精細な診断画像で“見やすく”撮影線量の大幅な低減で“やさしい”検査を提供します。

③ 乳房圧迫時の痛み軽減を目的とした新しい圧迫制御機能を搭載

患者さんの痛みを軽減する目的で、通常の乳房圧迫完了後に、乳房の厚みが変化しない範囲（±3㎜）で圧迫圧を減圧する機能を備えています。通常の圧迫方法よりも、最大圧迫圧となっている時間を低減します。

病院理念

荒尾市立有明医療センターは、
地域住民の健康の維持・増進に努め、
患者中心の安全で質の高い
医療の提供を目指します。

基本方針

1. 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

患者さんの権利と責務

1. あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
2. あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
4. あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
5. あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
6. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
7. 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
8. 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市立有明医療センター 地域医療連携だより
「小岱」第49号 2023年10月発行
発行：荒尾市立有明医療センター 患者サポート・医療連携室 連絡先：〒864-0041 熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537） FAX：0968-62-4543 メールアドレス：bsn@hospital.arao.kumamoto.jp